

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2017-

(西暦) 2018 年 3 月 21 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2017 年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

所属機関・職名 _____ 鹿児島大学医学部 島嶼・地域ナース育成センター _____

氏名 _____ 金子美千代 _____

いつも大変お世話になっております。9月～3月迄のご報告をさせていただきます。

9月～10月までリッチなデータが得られるよう聴く技術習得のため模擬インタビューを行いました。具体的には研究協力者（医療処置を有する患者が在宅療養生活を築いていく過程）のように転職等で「新しい生活を築く体験」をされた方を対象に模擬インタビューをさせていただきます、ICレコーダーに録音したものを一語一句逐語録に起こし、自己のコミュニケーションの傾向を分析致しました。指導教官に提出し指導をもらい、また次の模擬インタビューを行うという作業を繰り返しました。11月に指導教官の許可が頂け研究協力者の選定を行いデータ収集させていただきました。研究協力者は、入院を機に医療処置が必要となり、地方の2箇所の訪問看護ステーションによる訪問看護を受けながら、在宅で療養をしている人を対象と致しました。データ収集をする対象数は、Holloway(2000)が等質な対象を質的に調査する場合に最低限必要と示している6~8名と致しましたが現段階では6名のデータしか収集できておりません。研究協力者の選定は「病状が安定していることを条件に訪問看護ステーション管理者と協議の上、選定する」としていたので、寒い時期は入退院が多く、病状が安定しないためインタビュー調整に時間を要しました。その後、インタビューデータを一語一句逐語録に起こし分析を行なっています。研究対象者1人につき2回の面接を行っております。(1回目は研究目的に沿った調査事項をもとに作成したインタビューガイドを用いて半構造的に聴取し、2回目は1回目の面接内容を時系列に沿って整理し作成した逐語録を研究協力者に示し、その内容の確認と補足・修正を行い、データの信憑性を高めるよう努めました)。

データ分析は、StraussとCorbin(Strauss&Corbin,1998)によって開発された質的研究の一つであるグラウンデッド・セオリー・アプローチを戈木によって修正、紹介、解説された分析手法(戈木,2015)を参考にして、以下の手順で質的帰納的に行っています。

- 1、一人のデータ収集が終わった後に逐語録を作成し、それらを繰り返し読み込み、文脈を捉える。
- 2、記述データの意味の最小単位毎に切片化を行う。
- 3、切片化したデータからできるだけ多くの特性とその次元を抽出する。
- 4、特性と次元から抽出された概念にラベル名をつける。
- 5、類似したラベルの特性と次元を比較検討し、上位の概念であるサブカテゴリを抽出する。そしてこれらの作業中、何度もデータに戻り分析がデータからそれていないか確認する。
- 6、抽出したサブカテゴリを、それらを現象として捉えるためのパラダイムの構成要素である、状況、行為/相互行為、帰結に分類し、個別パラダイムを作成する。
- 7、全対象者のデータについて1~7の分析を行う。
- 8、全対象者の個別パラダイムを比較検討し、サブカテゴリの特性とその次元を比較検討し、カテゴリを抽出する。そして、カテゴリによって統合パラダイムを作成する。
- 9、各カテゴリの特性と次元を基に、カテゴリ同士を関連づけ、カテゴリ関連図を作成し、医療処置を有する患者の療養生活を築く体験を把握する。
- 10、分析の全過程を通して、研究指導者である看護系教授に検討データを提出し、解釈が

先入観に捉われたり、理論性を欠いたりするものでないかについて指導を受ける。(切片化データ、パラダイム例参照)

当初の計画通りにインタビューを行えず、データ分析時期が遅れてしまい、論文提出を半期延ばすことに致しました。ご支援下さいました笹川記念保健協力財団様に多大なるご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。論文提出後にまたご報告させていただきます。以上、進捗状況を完了報告とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。